

「ハイブリッド型授業大学院」と「ダブルメジャーの新専攻」

東北学院大学 学長 大西 晴樹



現代は、知識の専門化と総合的な知見の必要性が叫ばれている時代だといえましょう。このような時代だからこそ、専門家を育てると同時に、社会人の学び直しができる大学院が求められています。そのニーズに応えるために、本学大学院は学都仙台の中心という利便なキャンパスにあって、文学、経済学、経営学、法学、工学、人間情報学という6つの研究科を擁し、2025年4月からは、経済学研究科の中に「経済データサイエンス専攻」というダブルメジャーの修士課程を新たに開設します。

本学大学院は、社会人の学びにも対応した昼夜開講制やハイブリッド型授業（対面授業と遠隔授業の併用）、長期履修制度、科目等履修生制度などを導入し、学部から研究を直接継続する学部生、大学卒業後一定期間を置きながらも仕事に従事する中で専門的知識の必要性を痛感する社会人などすべての志願者に門戸を開いているのが特徴です。教授から直接対面で指導を受け、志を同じくする研究科の仲間と切磋琢磨し、修士論文、リサーチペーパー、博士論文に取り組むことが基本になりますが、ハイブリッド型授業大学院として、オンラインでの講義や演習も併用し、多忙な社会人の受講にも配慮します。指導教授による修士論文、リサーチペーパー、博士論文の指導の半分以上は対面による指導である必要がありますが、それ以外の科目については受講者の状況に合わせて遠隔で履修することが可能になっています。長期履修制度についていえば、入学時の就業環境に応じて、在学年限の範囲内（博士前期課程4年、博士後期課程6年）において、指導教授と相談のうえ、1年単位で長期履修期間を予め定めることができる制度です。在籍期間が長期化しても授業料の総額は必要とされる在籍期間（博士前期課程2年、博士後期課程3年）分の授業料であり、履修期間に応じて、授業料を分割払いできるメリットがあります。

キリスト教に基づく人格教育という本学の建学の精神の上に、高度な専門知識を研究活動という調査能力、思考能力、発表能力の涵養を通じて身に付け、現代社会が直面する様々な課題に大学院で取り組んでもらいたいと思います。

本大学院の組織図

大学院

4年間の学びで出会った学術研究をさらに深める環境がある

本学では各学部で端緒を開かれた学術研究活動をさらに推し進めたい方のために、全ての学部に対応する6つの研究科（12専攻）を設置し、充実した指導陣による質の高い教育が行われています。研究科はそれぞれ博士前期課程（2年）〔経営学研究科経営学専攻及び経済学研究科経済データサイエンス専攻は修士課程（2年）〕と博士後期課程（3年）に区分されています。

